

木村管工株式会社

環境活動レポート

2013 年度（2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日）

作成：2014 年 5 月 21 日

木村管工株式会社

代表取締役 木村 徹

目次

内容

1	環境方針.....	2
2	事業の内容.....	3
3	環境目標とその実績.....	9
4	主な環境活動計画の内容.....	11
5	環境への取組状況.....	13
6	環境関連法規への違反・訴訟等の有無.....	14
7	次回の活動予定内容.....	14

1 環境方針

木村管工株式会社は、会社の発展と地球環境保全との調和を積極的に進めるべく産業廃棄物の中間処理、資源リサイクルを独自の観点から積極的に推進し人間と自然との共生を図り、社会の持続的発展に寄与してまいります。

このように全社を挙げてこれからも地球環境保全に積極的に取り組んでまいります。

1. 環境への影響を調査及び評価し、当社の活動・製品及びサービスから発生する環境負荷を与えている主要因を効果的に低減または削減するために技術的・経済的に可能な範囲で達成すべき環境目的及び環境目標を定めます。
2. 環境改善計画を立案・実施し成果を評価して見直し、さらには次なる改善目標及び目標につなげるための環境マネジメントシステムを構築します。
3. 当社には順守しなくてはならない法律があります。これらの環境に関する法令・規制・条例・協定・その他近隣の方々との合意事項等を順守するのみならず先進の精神で積極的に環境保全を図ります。
4. 従業員に必要な教育・訓練を行い、環境保全意識が高く模範的行動がとれる人材を育成します。
5. 事業本部・各事業所で可能な範囲の美化運動を推進します。
6. 次の項目については、積極的に推進します。
 - 全社を上げて水使用量・二酸化炭素排出量・電気使用量・化石燃料使用量・最終処分廃棄物等の削減への取組
 - 当社に廃棄物を持ち込む・持ち出す事業者に対してアイドリングストップの協力
 - リサイクル化の推進を通し社会に貢献
 - グリーン購入法の特定調達品目の購入の推進
 - 廃棄物処理における環境配慮（重機の適切な運転、お客さんの車両待機時間の短縮）
 - 中和薬剤等（希硫酸）の適切な管理を行う

平成 23 年 4 月 1 日

木村管工株式会社

代表取締役

木村 徹

2 事業の内容

2.① 会社概要

会社名	木村管工株式会社
本社住所	東京都世田谷区喜多見 3-24-8
代表者	代表取締役 木村 徹
資本金	1,000 万円
設立年月日	1979 年 3 月 13 日
取扱い産業廃棄物	燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず 繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず 鋳さい、がれき類、はいじん、政令 13 号物
事業内容	産業廃棄物の収集運搬及び処理、リサイクル業 建設資材製造販売

	10 年度	11 年度	12 年度	13 年度
従業員数（4 月現在）	57 名	61 名	64 名	60 名
売上（百万円）	1154	1118	1236	1285
中間処理量	33546.0 t	32172.1 t	36675.5 t	34762.1 t
収集運搬量	9635.6 t	6295.8 t	6157.2 t	6653.8 t
処理後の最終処分量	3930.5 t	3291.5 t	3692.2 t	3094.9 t

保有車両	10 t 車	4 台	4 t 車	4 台	3 t 車	3 台
	軽トラック	2 台	営業車	4 台		

※上記本社住所は登記上の本社でありエコアクション 21 関連事業所には含まれません。

2.② 所在地及び施設概要

事業本部	
住所	神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町 1120-1
保管面積（積替保管）	338.73 平方メートル
保管上限（積替保管）	693.49 立法メートル
積上高さ（積替保管）	2.5 メートル
廃棄物の種類（積替保管）	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず 金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類
保有重機	バックホー 1 台 ホイローダー 1 台 フォークリフト 1 台
敷地面積	988 m ²

上瀬谷事業所	
住所	神奈川県横浜市瀬谷区上瀬谷町 46-1
保管面積（積替保管）	449.08 平方メートル
保管上限（積替保管）	1018.15 立法メートル
廃棄物の種類（積替保管）	汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず 金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類
保管上限（積替保管・特管）	1.9 立法メートル
廃棄物の種類（特管）	廃油
処理能力（中間処理） 及び廃棄物の種類	圧縮：10.4 t/日（設置年月日：平成 2004 年 2 月 3 日） 廃プラスチック類、紙くず、繊維くず 最大保管量：14.6 立法メートル
保有重機	バックホー 2 台 ホイローダー 1 台 フォークリフト 1 台
敷地面積	3,910 m ²

川崎岡上事業所	
住所	神奈川県川崎市麻生区岡上 1028
保管面積（積替保管）	75.1 平方メートル
保管上限（積替保管）	99.2 立法メートル
積上高さ（積替保管）	容器 1 段積みに限る
廃棄物の種類（積替保管）	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず 金属くず、ガラスくず、がれき類
処理能力（中間処理）	圧縮：9.6 t/日（設置年月日：2004 年 3 月 15 日） 廃プラスチック類
保有重機	バックホー 1 台 ホイローダー 1 台 フォークリフト 1 台
敷地面積	1,251 m ²

北町中間処理プラント	
住所	神奈川県横浜市瀬谷区北町 20-20
保管面積（積替保管）	6.9 平方メートル
保管上限（積替保管）	8 立法メートル
廃棄物の種類（積替保管）	廃プラスチック類、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類 ※石綿含有産業廃棄物を含むものに限る
処理能力（中間処理）	破碎①：78 t/日（設置年月日：2001 年 5 月 23 日） 木くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類

	破碎②：4.98 t /日 （設置年月日：2001年5月23日） 廃プラスチック類 圧縮：8.32 t /日 （設置年月日：2004年2月3日） 廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、金属くず 最大保管量：490.89 立法メートル
保有重機	バックホー 3台 フォークリフト 1台
敷地面積	1,215 m ²

資材再生プラント	
住所	神奈川県横浜市瀬谷区目黒町9-7
処理能力（中間処理）	分級造粒固化：210 t /日 （設置年月日：2009年10月1日） 木くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類 破碎：31.2 t /日 （設置年月日：2013年2月28日） ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類 最大保管量：1959.08 立法メートル
保有重機	バックホー 2台 ホイルローダー 1台 フォークリフト 1台
敷地面積	3397.45 m ²

2.③ 環境管理責任者：担当者氏名及び連絡先

環境管理責任者：木村 雅生

担当者：石田 光

連絡先：電話 045-351-9640 FAX045-351-9531

2.④ 許可内容

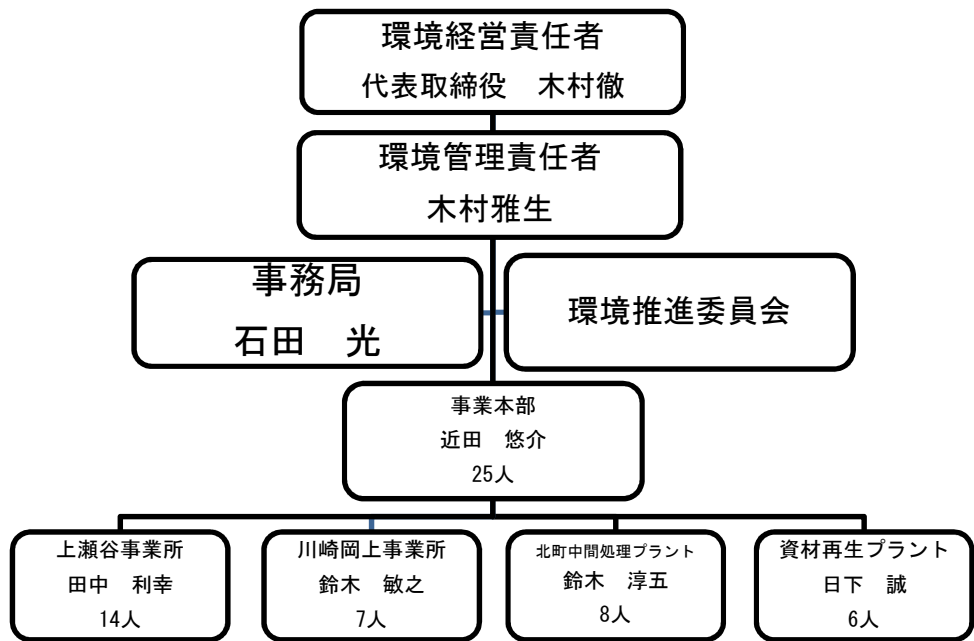
都道府県・市	業区分	許可番号	許可年月日	許可期限
横浜市	処分	第05620001425号	1988年1月23日	2018年3月31日
川崎市	処分	第05720001425号	2004年4月1日	2016年3月31日
横浜市	収集運搬（積保）	第05610001425号	2006年4月1日	2018年3月31日
川崎市	収集運搬（積保）	第05710001425号	2005年11月1日	2017年10月31日
神奈川県	収集運搬	1402001425	2005年11月7日	2017年9月28日
東京都	収集運搬	第13-00-001425号	2004年4月1日	2016年2月28日
千葉県	収集運搬	第1200001425号	2006年8月17日	2016年8月16日
群馬県	収集運搬	01000001425	2013年9月10日	2018年9月9日
埼玉県	収集運搬	01100001425	2012年2月3日	2017年2月2日
横浜市	収集運搬（特管）	第05660001425号	2007年5月1日	2017年4月30日

神奈川県	再生事業者	第 G00241 号	2006 年 9 月 21 日	—
------	-------	------------	-----------------	---

2. ⑤ 処理料金（1 m³あたりの単価）※特殊品目は別途

- 廃プラスチック類…………… 4,000 円 ～ 8,000 円
- 金属くず…………… 4,000 円
- ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず…………… 12,000 円 ～ 16,000 円
- がれき類…………… 7,200 円 ～ 16,000 円
- 紙くず…………… 6,000 円 ～ 12,000 円
- 木くず…………… 5,000 円 ～ 8,000 円
- 繊維くず…………… 6,000 円 ～ 12,000 円

2. ⑥ 組織図



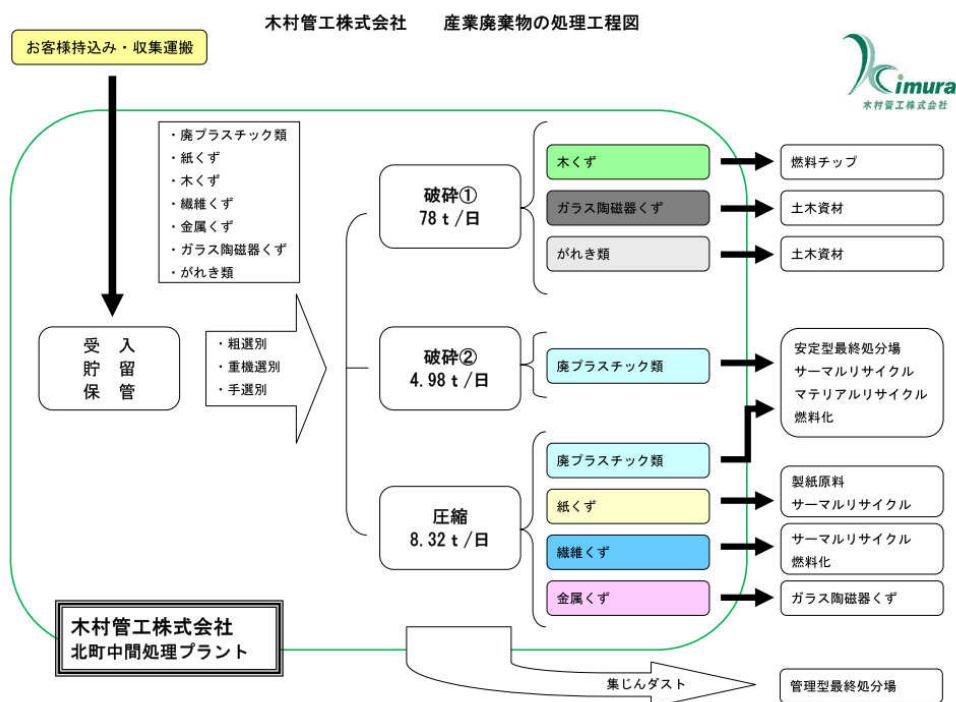
2. ⑦ 有資格者一覧

資格・講習・特別教育	人数	資格・講習・特別教育	人数
大気関係第4種公害防止管理者	1	特定化学物質等作業主任者技能講習	3
水質関係第4種公害防止管理者	1	高所作業者運転技能講習	2
産業廃棄物処理技術管理者	4	地山の掘削作業主任者講習	1
第二種衛生管理者	1	ショベルローダー等運転技能講習	2
2級土木施工管理技士	2	石綿取り扱い作業従事者特別教育	1
大型自動車免許	16	自由研削砥石の取替等の業務及び試運転特別教育	1

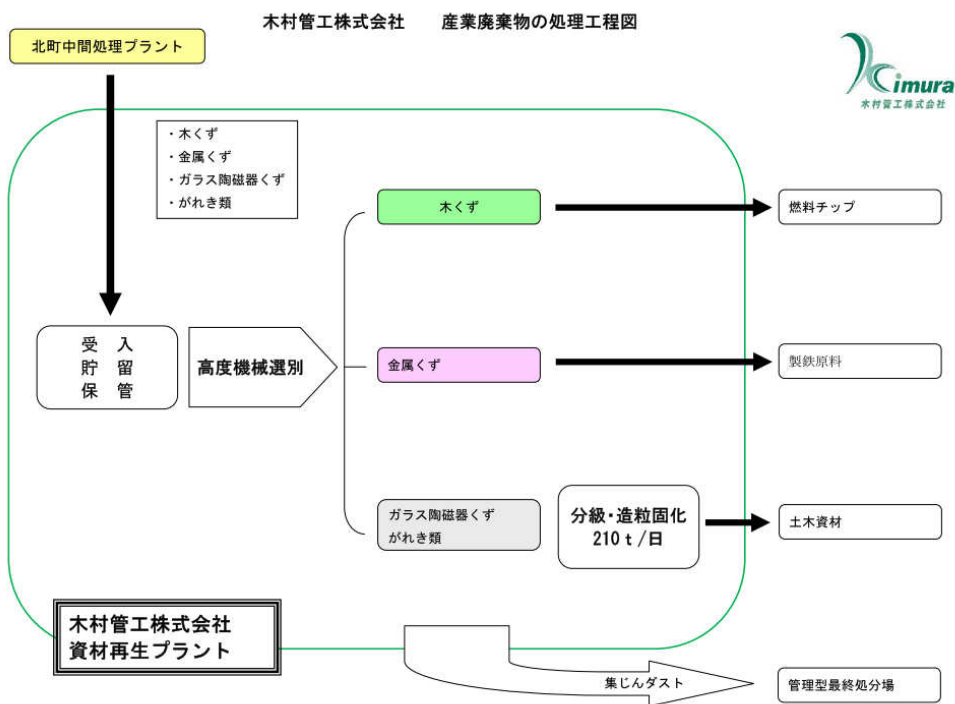
大型特殊自動車免許	6	珠算 3 級	1
けん引免許	3	簿記 3 級	2
クレーン運転免許	2	英検 3 級	1
移動式クレーン運転免許	3	計算技術検定 4 級	2
小型移動式クレーン運転技能講習	3	計算技術検定 3 級	1
揚貨装置運転免許	1	三級ファイナシヤル・プランニング 技能士	1
土止支保工作作業主任者	1	マイクロソフトオフィススペシャリスト (エクセル)	1
酸素欠乏危険作業主任者	3	マイクロソフトオフィススペシャリスト (ワード)	1
足場組立等作業主任者	1	電卓検定初段	1
宅地建物取引主任者	2	甲種防火管理者	1
3 級自動車ガソリン整備士	5	乙種防火管理者	1
3 級自動車シャーシ整備士	3	食品衛生管理者	1
2 級ガソリン自動車整備士	2	運行管理者	1
2 級ジーゼル自動車整備士	2	4 級アマチュア無線技士	1
危険物取扱乙種第 4 種取扱者	3	上級救命講習	1
車両系建設機械運転技能講習	37	サービス接遇実務検定 2 級	1
フォークリフト運転技能講習	41	トレース技能検定 2 級	1
玉掛技能講習	6	自衛消防技能認定	1
ガス溶接技能講習	8	自衛消防業務講習	1
アーク溶接技能講習	7	調理師免許	1

2. ⑧ 処理工程図

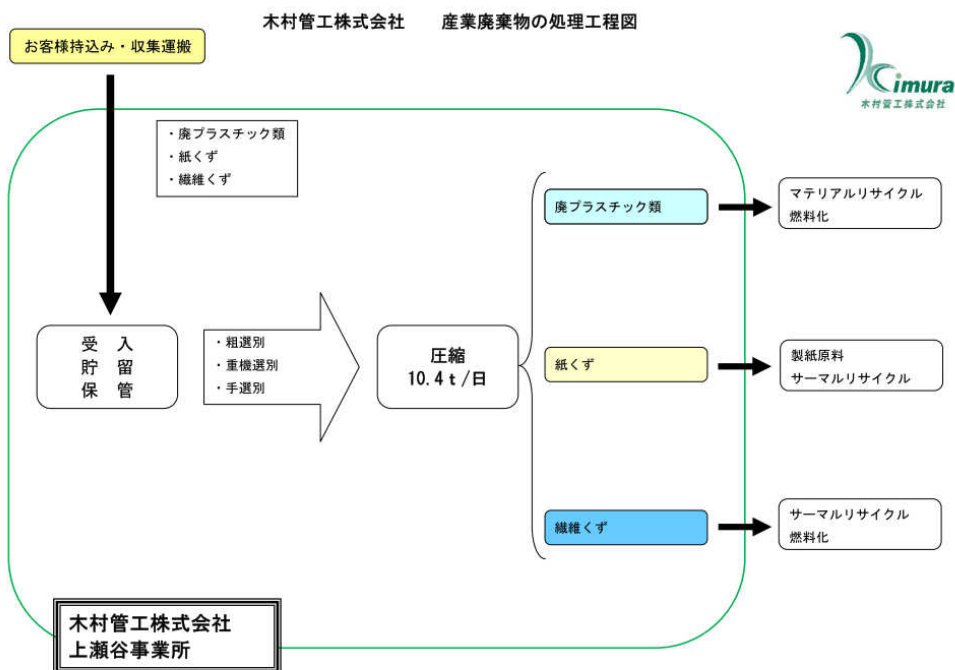
北町中間処理プラント



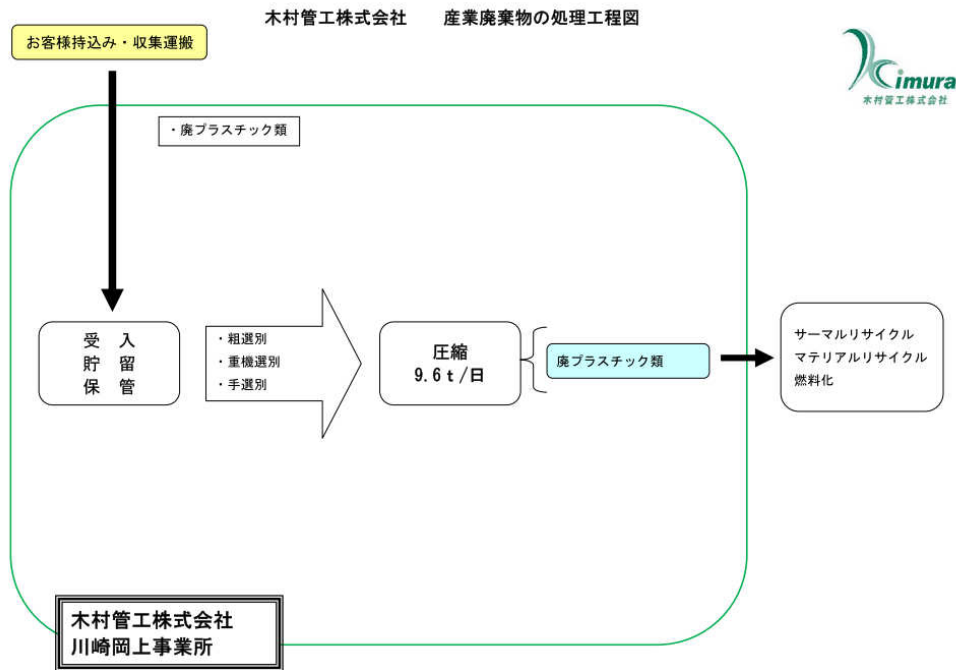
資材再生プラント



上瀬谷事業所



川崎岡上事業所



3 環境目標とその実績

3. ① 環境目標

木村管工株式会社は、会社の発展と地球環境保全との調和を積極的に進めるべく、産業廃棄物の中間処理・資源リサイクルを独自の観点から積極的に推進し、最終処分量（率）を低減し人間と自然の共生を図り、社会の持続的発展に寄与して参ります。

環境負荷と環境への取組結果を踏まえ定めた環境負荷低減のための目標は次の通りである。

中期環境負荷低減目標

アウトプット項目	単位	2012 年度実績	2013 年度目標	2014 年度目標	2015 年度目標
電力使用量	kwh/年	629,685.0	636,000.0	620,000.0	620,000.0
軽油使用量	ℓ/年	266,002.9	264,000.0	260,000.0	255,000.0
ガソリン使用料	ℓ/年	5,904.0	6,000.0	6,000.0	5,800.0
二酸化炭素排出量	kg-co2/年	956,203.4	984,000.0	980,000.0	975,000.0
水使用量	m ³ /年	2,664.0	2,400.0	2,400.0	2,400.0
リサイクル率の向上	%	90.0	92.0	92.0	92.0
グリーン購入	%	0.0	60.0	70.0	70.0
中和剤の管理（漏洩）	件	0.0	0.0	0.0	0.0
環境配慮 (搬入車両の待機時間 20 分以内)	件	0.0	0.0	0.0	0.0

※基準：2012 年度実績

※昨年度に続き収集運搬業務に力を入れるため化石燃料（軽油・ガソリン）の使用量増加が見込まれる。

※プラント設備増強により電気、軽油使用量が見込まれる。

※積極的な営業活動を行い、仕事量が増えていくと思うが各使用量を抑えたい。

※リサイクル率＝再資源物・中間処理後再資源化物／搬入量

※購入電力の排出係数：0.378

3.② 環境への負荷実績

当社の業務内容は、産業廃棄物収集運搬及び処分、リサイクル業、建設資材製造販売であり環境負荷として主に考えられるのは総エネルギー投入量、総物質投入量、水資源投入量、温室効果ガス排出量、中間処理後の最終処分廃棄物量である。

環境負荷として数値化したものは下表の通りである。

コア指数

インプット項目	単位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
総エネルギー投入量	MJ	17,067,832.2	15,969,912.4	16,653,532.3	16,390,947.5
搬入量（中間処理量当り）	MJ/t	508.78	496.38	454.07	471.51
総物質投入量	t	28,299.8	24,612.9	23,978.3	27,474.3
搬入量（中間処理量当り）	t/t	0.84	0.77	0.65	0.79
水資源投入量	m ³	5,439.0	2,482.0	2,664.0	2,571.0
搬入量（中間処理量当り）	m ³ /t	0.16	0.08	0.07	0.07

アウトプット項目	単位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
二酸化炭素排出量	kg-co2	975,887.4	916,661.7	956,192.2	948,519.2
搬入量（中間処理量当り）	kg-co2/t	29.09	28.49	26.07	27.28
総製品生産量	t	40,895.5	30,247.4	29,044.4	26,841.0
搬入量（中間処理量当り）	t/t	1.21	0.94	0.79	0.77
中間処理量	t	33,546.0	32,172.8	36,675.5	34,762.1
搬入量（中間処理量当り）	t/t	1.00	1.00	1.00	1.00
中間処理後再資源化量（有償）	t	16,419.6	16,391.3	17,365.7	15,655.1
搬入量（中間処理量当り）	t/t	0.48	0.51	0.47	0.47
中間処理後再資源化量（逆有償）	t	13,195.9	12,491.1	15,614.5	16,012.6
搬入量（中間処理量当り）	t/t	0.39	0.39	0.42	0.46

中間処理後最終処分量	t	3,930.5	3,291.5	3,692.2	3,094.9
搬入量（中間処理量当り）	t/t	0.11	0.10	0.10	0.08
事業活動からの廃棄物量	t	37.2	22.4	17.4	11.2
搬入量（中間処理量当り）	t/t	0.0	0.0	0.0	0.0
総排水量	m ³	5,439.0	2,482.0	2,664.0	2,571.0
搬入量（中間処理量当り）	m ³ /t	0.16	0.08	0.07	0.07

サブ指標（インプット）

エネルギー投入量	単位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
----------	----	--------	--------	--------	--------

購入電力量	MJ	6,482,914.5	5,943,984.7	6,189,803.6	5,852,683.7
化石燃料	MJ	10,584,917.7	10,025,927.7	10,463,728.7	10,538,263.8
総エネルギー投入量合計	MJ	17,067,832.2	15,969,912.4	16,653,532.3	16,390,947.5

物質投入量	単位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
資材再生プラント原料	t	13,587.9	13,625.9	14,379.7	12,833.6
造粒材投入量	t	2,761.0	2,598.0	2,875.7	2,824.1
碎石購入量	t	11,950.9	8,389.0	6,722.9	11,816.6
総物質投入量合計	t	28,299.8	24,612.9	23,978.3	27,474.3

水資源投入量	単位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
上水道	m ³	2,439.0	2,482.0	2,664.0	2,571.0
地下水	m ³	0.0	0.0	0.0	0.0
水資源投入量合計	m ³	2,439.0	2,482.0	2,664.0	2,571.0

サブ指標（アウトプット）

二酸化炭素排出量	単位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
電力	kg-co2	249,292.1	228,568.3	238,020.9	225,057.4
化石燃料	kg-co2	726,595.3	688,093.4	718,171.3	723,461.8
二酸化炭素排出量合計	kg-co2	975,887.4	916,661.7	956,192.2	948,519.2

製品販売量	単位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
エコサンド	t	21,419.5	16,840.3	18,415.1	13,270.5
碎石	t	19,476.0	13,407.1	10,629.3	13,570.5
総販売量	t	40,895.5	30,247.4	29,044.4	26,841.0

排水量	単位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
下水道	m ³	2,439.0	2,482.0	2,664.0	2,571.0
公共用水域 + 蒸発	m ³	0.0	0.0	0.0	0.0
総排水量	m ³	2,439.0	2,482.0	2,664.0	2,571.0

4 主な環境活動計画の内容

当社の主要な環境保全に向けた具体的な取組内容を以下に示し、活動計画は別紙の活動計画書に示す。

4.① 総エネルギー投入量・温室効果ガス排出量削減

社用車の効率的な運転の推進

無駄なアイドリングをせず、アクセルむらのない運転の推進

排出ガス削減型の建設機械の選定

重機の効率的な使用

昼休みの照明消灯（減灯）

保有重機の使用頻度の見直しによる減車

4. ② 廃棄物（一般廃棄物）最終処分量削減

紙類の分別回収による資源化

裏紙の使用

弁当を容器再使用業者からの購入

4. ③ 廃棄物（産業廃棄物）最終処分量削減

自社プラントによって再資源化された改良砂・改良土の製造販売

金属類の分別回収による再資源化

ダンボールなどの紙くずの分別回収による再資源化

新しいリサイクル搬出先の確保

分別の徹底

4. ④ 水資源投入量削減

節水コマの設置

効率的な散水

スーパードライでこまめな清掃をすることによるホコリの飛散防止

ダストバスターによるホコリの飛散防止

4. ⑤ 環境経営システムに関わる取組実施率向上

社内コミュニケーションの活性化による情報の共有

4. ⑥ 教育の実施の有無

当社の社員教育の実施状況は下表の通りである。

研修名	対象者	講師	研修内容	実施時期	実施結果
管理者研修	管理者・監督者	管理責任者	業界動向 全社目標 廃棄物処理法に関する 行政概論	適宜	○
社員研修	一般社員	管理者	環境方針の趣旨説明 部門の環境目標 部門の環境活動計画 各人の担当と役割 日常業務の担当と役割	適宜	○
フォーク・重機 運転候補者	B社員	外部研修期間	実技 ※12年度は2名実施	適宜	○
E A 21 内部監 査員養成研修	内部監査員 指名者	環境 カウンセラー	E A 21 要求事項 内部監査の進め方 監査実技	適宜	○

5 環境への取組状況

5.① 環境保全の取組チェック結果

環境省発行の『環境活動評価プログラム』の環境保全の取組の自己チェックに準じて環境への取組について自己チェックした結果の概要は次の通りである。

- 事業活動へのインプットに関する項目の実施度合いは比較的低いので今後の課題とし、新エネルギー導入を積極的に進めていきたい。
- 事業活動からのアウトプットに関する項目は施策実施度合いが比較的高いので今後もこの状態を維持したい。
- 環境経営システムに関わる項目は施策実施度合いが低いので今後の課題としてきたが、昨年度と比較し若干ではあるが施策実施度合いが上がったので今後さらなる上昇を目指していきたい。
- 環境保全に重大な効果がある項目のうち高額の投資を必要としない省エネ（節電・燃料）は今年度の施策として推進したい。一方、設備投資を要する廃プラスチック類のリサイクル等は中期目標としてあげる。
- 組織のマネジメントに関する項目は、少ない投資で実現可能であるため強力に推進したい。
- 今後は国際協力などを視野に入れて活動していきたい。

以下取組チェック結果を示す。

事業活動へのインプットに関する項目	チェック結果の点数	満点の点数	施策実施度合 (%)
省エネルギー・新エネルギー使用拡大	19	54	35.2
省資源・グリーン購入	27	36	75.0
節水・水の効率利用	32	38	84.2
小計	78	128	60.9

事業活動からのアウトプットに関する項目	チェック結果の点数	満点の点数	施策実施度合 (%)
二酸化炭素の排出抑制・大気汚染等の防止	42	48	87.5
化学物質対策	1	2	50.1
受託した産業廃棄物処理における環境配慮	58	64	90.6
事務所等における一般廃棄物の排出抑制	84	90	93.3
排水処理	27	30	90.0
収集運搬に伴う環境負荷の低減	60	60	100.0
小計	272	294	92.5

環境経営システムに関わる項目	チェック結果の点数	満点の点数	施策実施度合 (%)
環境保全のための仕組み・体制整備	62	70	88.6
環境教育・環境保全活動の推奨等	26	44	59.1
情報提供・社会貢献・地域の環境保全	30	48	62.5
環境ビジネス・技術開発	32	34	94.1
国際協力及び海外事業における配慮	1	10	10.0
小計	151	206	73.3

※表の見方

- 自社に関する環境保全に関する個々の施策ごとに概ね実施している場合は2点、一部実施している場合は1点、未実施の場合は0点として、実施ごとに集計し環境保全に関する施策の実施度合いを示した。
- また、各取組チェック項目の効果に応じ1~3点の重み付けを行った。
- 自社に関する施策を全て概ね実施している場合は、施策実施度合い100%となる。

5. ② 環境活動の取組結果の評価

今年度の環境保全活動が終了し、社長と環境管理担当部門が環境への取組結果の評価を行った。評価結果は次の通りである。

推進項目	単位	13年度目標	13年度結果	評価
電気使用量	kWh	680,640.0	629,685.0	○
軽油使用量	ℓ	268,800.0	266,002.0	○
二酸化炭素排出量	kg-co2	995,000.0	956,203.4	○
水使用量	m ³	2,400.0	2,664.0	×
最終処分廃棄物のリサイクル率	%	92.0	89.9	×

是正・予防策

- 電気使用量 : 余裕をもって目標を達成できたので、来期も省エネに心掛け活動していく。
- 軽油使用料 : 収集運搬車両は効率的な運搬経路の選択、重機は適度な暖機・使用頻度の低減を心掛ける
- 水 : 粉塵対策のため散水をしなければならないが、効率的な散水を心掛け、粉塵の飛散を防止する。
- リサイクル率 : リサイクル率を上げるための課題はあるがこれ以上の飛躍的な向上は望めないで今後は現状維持としていきたい。

6 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

当社に関する環境関連法規は、下表に示す。

内容	法規遵守結果
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○
下水道法	○
浄化槽法	○
騒音規制法	○
振動規制法	○
消防法	○
道路運送車両法	○
自動車NOXPM法	○
労働安全衛生法	○
横浜市生活環境の保全に関する条例	○
近隣住民との協定	○

※環境関連法規制への違反はありません。

なお、関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

7 次回の活動予定内容

2011年3月11日に起きた東日本大震災により、節電などのエコ活動が注目され現在ではそれが習慣となっている。継続してこのエコ活動をしていき、さらに地球環境にやさしい活動をしていきたい

い。エコアクション認定から7年近くなり、また電気やガス料金の値上げなど直接コストに響くことも控えているので改めてエコアクション活動をしていきたい。

次回の環境レポート作成予定日は、2015年5月中旬